

## ～ 小田原城出土の家紋瓦 ～

小田原城および城下町を発掘すると、土器や陶磁器などとともに瓦が出土することがあります。瓦は、二の丸以内の小田原城内では多く出土し、三の丸以内の武家地でも比較的多く出土しますが、城下町では少ない傾向にあります。

出土する瓦には様々な種類があります（図1）、丸瓦・平瓦が多く、丸瓦・平瓦のうち軒先に使われる瓦を軒丸瓦・軒平瓦と呼びます。軒丸瓦には「巴文様」が主に用いられ、軒平瓦には「唐草文様」などが施されています。また、軒丸瓦には家紋をあしらったものもあります。

今回、御用米曲輪の発掘調査で「三つ葉葵紋」の軒丸瓦が多量に出土したことに合わせ、小田原城および周辺で出土した家紋瓦をご紹介します。

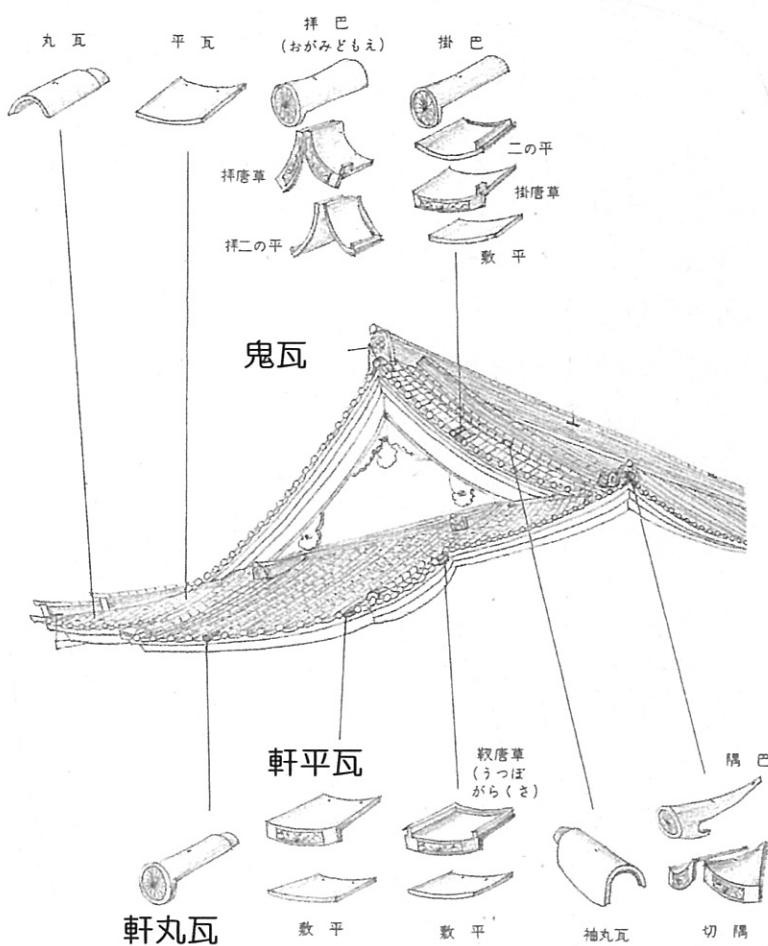


図1 瓦の名称と使用する位置



図2 出土した家紋瓦

## 国指定史跡小田原城跡

# ご よ う まいくる わ しゅつど み ば あおいもんのきまるがわら 御用米曲輪出土の三つ葉葵紋軒丸瓦

史跡小田原城跡御用米曲輪の発掘調査で、江戸幕府・徳川家の家紋である「三つ葉葵紋」のついた軒丸瓦が多量に出土しました(図3~5)。

御用米曲輪では、史跡整備に伴って平成22年度より発掘調査を実施しています。これまでにも重要な発見が相次ぎ、昨年度の調査では戦国時代の礎石建物跡や庭状遺構などが見つかりました。今年度は、さらに戦国時代の遺跡を明らかにするため、第5次調査を実施しています。

今年度の調査では、これまでに「三つ葉葵紋」の軒丸瓦が多量に出土するという成果がありました。中でも、1号遺構と呼んでいる明治時代後期の土坑(瓦礫片付け穴)からは、80点の「三つ葉葵紋」軒丸瓦が出土しています。1982年の第1次調査でも、約40点の「三つ葉葵紋」瓦の出土が報告されていますので、御用米曲輪で出土した「三つ葉葵紋」瓦は、全部で120点を超える数になります。

徳川家のお膝元である江戸(東京都内)の発掘調査でも、「三つ葉葵紋」の瓦が出土するのは、江戸城(皇居)や徳川御三家の屋敷跡、幕府用地など出土する場所は限られており、しかもほとんどが鬼瓦です。100点を超える「三つ葉葵紋」軒丸瓦の出土は、全国的にも例がなく、日本一の出土量となります。

これらの瓦は、御用米曲輪にあった江戸幕府の蔵に用いられたと考えられます(図5)。

これらの「三つ葉葵紋」瓦は、江戸時代の小田原城の役割をうかがわせる重要な資料といえます。

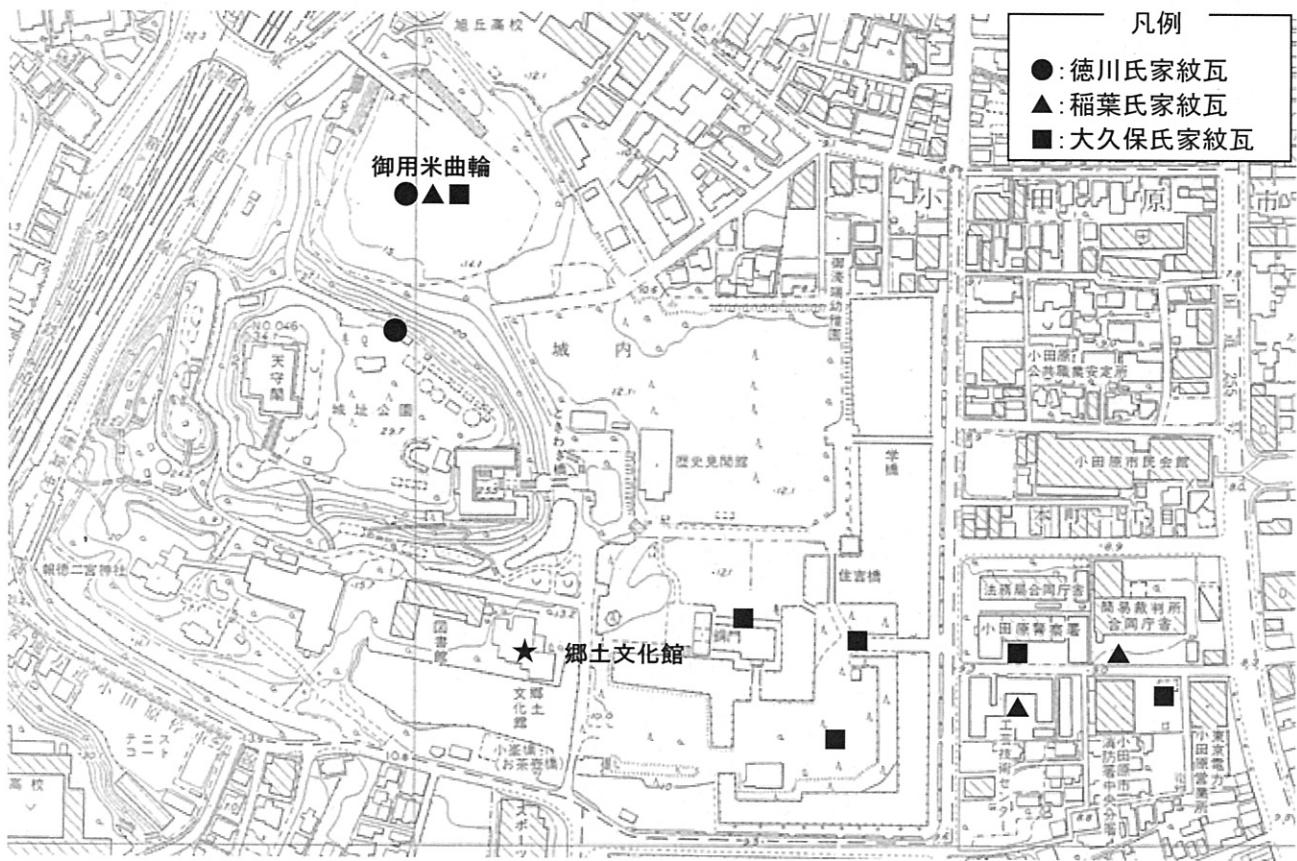


図3 家紋瓦出土地点位置図



直径 17cm～18cm。  
葉の模様(葉脈)はおよそ 31 葉であり、上部に $\ominus$ の刻印が押されたものもあります。この他、微妙な紋様の違いが 10 種類程度確認できています。

図4 「三つ葉葵紋」軒丸瓦

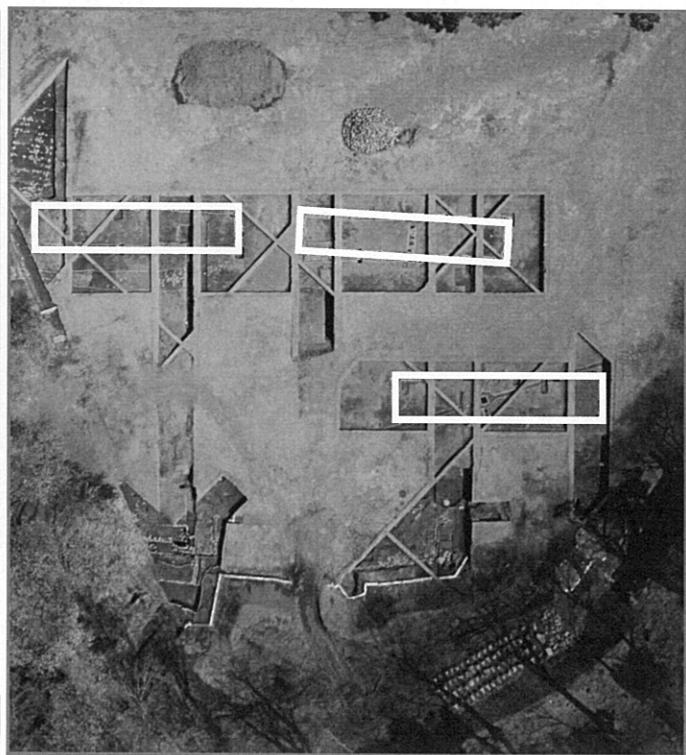


図5 御用米曲輪検出の蔵跡

## ◎大久保家と「大久保藤」紋瓦

大久保氏は、小田原合戦後の天正18年(1590)に徳川家康の家臣であった大久保忠世が小田原城主となり、慶長19年(1614)に息子である忠隣が改易されるまでの24年間小田原城主でありました。

また、貞享3年(1686)に大久保忠朝(忠隣のひ孫)が小田原城主に復帰して以降、明治4年(1871)の廃藩置県に至るまで、忠朝・忠増・忠方・忠興・忠由・忠顕・忠真・忠慤・忠札・忠良10代185年間小田原城主でありました。

大久保氏は、藤原一族宇都宮氏の系統で、その家紋は藤原氏一族を示す「藤紋」の一種です。その中でも「大久保藤」「上り藤に剣大字」と呼ばれるものを用いており、垂れ下がって咲く「下がり藤」が一般的なのに対し、「上り藤」となっている事とその中に「大」の字が入っていることが特徴的です。

この瓦は、御用米曲輪で出土した「切据鬼」瓦(下り棟に用いられる)です。大久保氏家紋瓦は、馬屋曲輪や馬出門などの二の丸以内での出土が顕著ですが、三の丸域でも僅かに出土しています。



## ◎稻葉家と「折敷に三文字」紋瓦

稻葉氏は、寛永9年(1632)に小田原城主となりました。初代稻葉正勝は、三代將軍徳川家光の乳母である春日局の実子で、正勝・正則・正通に至る三代 53 年間小田原城主でありました(貞享2年まで)。

稻葉氏は、寛永10年の寛永地震の復旧に尽力し、現在見られるような石垣を備えた白亜の天守閣聳える小田原城を復興しました。

稻葉氏は、越智一族河野氏の系統といわれ、その家紋は伊予国大三島の大山祇神社(大三島神社)と同じ「折敷に三文字」の系統の紋を使用しています。大三島神社は全国にある三島社の総社であり、家紋の「折敷(三方)」とは神様にお供えをする台のことであり、その中にある「三」は三島神社を示すとの説もあります。

この稻葉氏の家紋瓦は、芸術文化創造センター建設予定地(杉浦平大夫邸跡)で出土したものですが、これまでの調査では稻葉氏家紋瓦はあまり出土していません。

